

問1	三内丸山遺跡の調査結果から推測される、縄文文化の生活や社会の様子について正しく説明しているものはどれですか。（2024年 福島県公立入試 類似）			
	1. 前方後円墳などの巨大な墳墓が築かれ、広域を支配する強力な王権が誕生していた。	2. 大規模な灌漑設備を用いた水田稲作が普及し、食料を蓄えるための高床倉庫が主流となった。	3. 大陸から青銅器や鉄器が伝わり、武器や祭具として使用されることで集落間の争いが激化した。	4. 豊かな自然環境を背景に、狩猟・採集・漁労を行いながら大規模な定住生活を営んでいた。
問2	青森県に位置し、大型掘立柱建物跡などの発見によって縄文時代の定住生活の実態を明らかにした、日本最大級の集落跡は何か。（2025年 北海道公立入試 類似）			
	1. 三内丸山遺跡	2. 岩宿遺跡	3. 吉野ヶ里遺跡	4. 登呂遺跡
問3	日本の東北地方、現在の青森県に位置する縄文時代を代表する遺跡について、その名称と時代の組み合わせとして正しいものを選びなさい。（2023年 徳島県公立入試 類似）			
	1. 登呂遺跡 — 弥生時代	2. 三内丸山遺跡 — 縄文時代	3. 吉野ヶ里遺跡 — 弥生時代	4. 三内丸山遺跡 — 弥生時代
問4	山形県舟形町で出土し、高さが約45cmあり国宝にも指定されている「縄文の女神」について述べた文として、歴史的な事実に基づいた正しい説明を選びなさい。（2019年 山形県公立入試 類似）			
	1. 飛鳥時代に大陸から伝わった仏教の影響を受けて作られた、初期の仏像である。	2. 縄文時代中期に作られた土偶であり、当時の人々の信仰や祈りの対象であった。	3. 古墳の周囲に並べられた埴輪の一種であり、武人や馬の形をしたものが多い。	4. 弥生時代の遺跡から発見された青銅器であり、大陸との交流を示す資料である。
問5	縄文時代には、重く割れやすい土器や土偶の制作、長期間の生活痕跡である貝塚の形成といった文化がみられます。これらの文化が形成された背景となる当時の人々の生活様式について、最も適切な説明を選びなさい。（2026年 熊本県公立入試 類似）			
	1. 支配者の権力を示すために、巨大な古墳を造営して周辺で暮らしていた。	2. 竪穴住居などを拠点とし、一定の場所に定住して暮らすようになった。	3. 本格的な水稲耕作を行い、大規模な環濠集落をつくって暮らしていた。	4. 大型の野獣を狩猟するため、獲物を追って各地を移動しながら暮らしていた。
問6	縄文時代の遺跡からは、女性をかたどったとされる土偶など、当時の精神文化を反映した遺物が多く発見されています。これらの遺物が作られた目的や背景として最も適切な説明を選びなさい。（2024年 熊本県公立入試 類似）			
	1. 身分の高い人物が亡くなった際、その墓である古墳に副葬品として納めるために作られた	2. 自然の恵みに感謝し、食べ物の豊かさや安産などを祈るために作られた	3. 稲作が普及し、収穫した米を保存するためのまじないとして作られた	4. 大陸との交易において、有力者が自分の富や権力を誇示するために作られた
問7	青森県にある三内丸山遺跡の特徴を説明した新聞記事において、この遺跡が「縄文時代の生活観を大きく変えた」とされる理由として、当時の人々の暮らしの様子を正しく説明しているものはどれか。（2025年 北海道公立入試 類似）			
	1. 本格的な稲作が始まり、食料を蓄えるための高床倉庫や、周囲を堀で囲んだ環濠集落が形成された。	2. 大型掘立柱建物跡や多数の竪穴住居が見つかり、長期間にわたる大規模な定住生活が行われていた。	3. 打製石器を用いてナウマン象やヘラジカなどの大型動物を追いながら、移動生活を繰り返していた。	4. 青銅器や鉄器などの金属器が普及し、身分の差が生まれるとともに大規模なクニ同士の争いが起きた。
問8	縄文時代の人々が、食物の豊作や子孫の繁栄、あるいは病気や怪我の治癒などを願うための信仰として用いた、女性をかたどった土製の像を何と呼びますか。（2023年 香川県公立入試 類似）			
	1. 石包丁	2. 埴輪	3. 土偶	4. 銅鐸
問9	縄文時代の人々が製作した「土偶」について、その特徴や目的を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2023年 徳島県公立入試 類似）			
	1. 安産や豊作を祈るまじない、あるいは病気の治癒を願う儀式的道具として用いられた。	2. 大陸から伝わった稲作技術とともに、収穫した稲の穂を摘み取るための道具として広まった。	3. 武士が戦場に赴く際、勝利を祈願して寺社に奉納するための供え物として作られた。	4. 亡くなった有力者の権力を示すために、巨大な墓の周囲に並べる装飾として作られた。
問10	縄文時代に見られる「土偶」と、後の古墳時代に見られる「埴輪」を比較した説明として、正しいものはどれですか。（2019年 山形県公立入試 類似）			
	1. 土偶は、弥生時代に稲作が伝わった際に祭祀用として広まったが、埴輪は縄文時代に集落の守り神として置かれた。	2. 土偶は、豊かな収穫や安産などのまじないのために縄文時代に作られたが、埴輪は古墳の主の供養や魔除けとして古墳時代に作られた。	3. 土偶は、古墳の内部に副葬品として納められたが、埴輪は住居跡から発見されることが多く、日常的な食器として使われた。	4. 土偶は、大陸から伝わった金属器の影響を受けて作られたが、埴輪は日本独自の土器文化から発展した石製品である。
問11	紀元前2000年ごろ、世界でインダス文明が栄えていた時期の日本列島における生活の様子を説明した文として、最も適切なものはどれですか。（2016年 愛知県公立入試 類似）			
	1. 土器はまだ作られておらず、ナウマンソウなどの大型の獲物を追いながら移動して生活していた	2. 金属器が伝来して武器や祭祀の道具として使われ、有力な王を葬るための巨大な前方後円墳が築かれた	3. 薄手で硬い赤褐色の土器を用いて食料を保存し、大規模な水田での稲作を中心とした生活を送っていた	4. 表面に縄の模様がついた厚手の土器を用いて煮炊きを行い、地面を掘り下げて床を作った住居に住んでいた
問12	縄文時代における食生活の工夫と、それに伴う住環境の変化について述べた文として正しいものはどれですか。（2016年 愛知県公立入試 類似）			
	1. 青銅器や鉄器などの金属器を用いて効率的に食料を生産するようになり、外敵を防ぐための環濠集落が作られた	2. 狩猟・採集による食料確保に加え、土器で煮炊きを行うことで食べられるものが増え、竪穴住居での定住が進んだ	3. 大陸から伝わった稲作が広まったことで食料の余剰が生まれ、それを保管するために高床倉庫が普及した	4. 氷河期が終わり温暖になったことで大型動物が絶滅したため、移動を繰り返しながら洞窟で暮らすようになった
問13	山形県の西ノ前遺跡から出土した「縄文の女神」に代表される、縄文時代に作られた土製の人形について、その名称と当時の人々が込めた願いの組み合わせとして正しいものはどれですか。（2019年 山形県公立入試 類似）			
	1. 埴輪 — 亡くなった王の権威を示し、供養するため	2. 銅鐸 — 稲作の豊作を願う祭りの道具とするため	3. 勾玉 — 魔除けや身分を示す装飾品とするため	4. 土偶 — 豊かな収穫や安産を祈るため

答え合わせ・解説

問1	答え 4 豊かな自然環境を背景に、狩猟・採集・漁労を行いながら大規模な定住生活を営んでいた。	三内丸山遺跡からは、栗の木の栽培や魚介類、獣の骨などが大量に出土しており、自然の恵みを巧みに利用して安定した生活を送っていたことがわかっています。水田稲作や高床倉庫、金属器の利用は主に弥生時代以降の特徴であり、巨大な古墳の造営は古墳時代の特徴です。この遺跡の発見は、縄文人が原始的な移動生活をしていたという旧来の説を覆し、高度な定住社会を築いていたことを証明しました。
問2	答え 1 三内丸山遺跡	青森県で発見された三内丸山遺跡は、縄文時代における最大級の集落跡であり、当時の人々が一定の場所に長期間とどまる「定住」を行っていたことを示す重要な遺跡である。佐賀県にある弥生時代の吉野ヶ里遺跡と混同されやすいが、時代背景と地域（青森）を区別して理解することが重要である。
問3	答え 2 三内丸山遺跡 ― 縄文時代	青森県で発見されたこの遺跡は、縄文時代における日本最大級の集落跡です。大型の掘立柱建物や多数の竪穴住居の跡が見つかっており、当時の定住生活の様子を詳しく伝える重要な史跡です。佐賀県の吉野ヶ里遺跡や静岡県登呂遺跡は、いずれも弥生時代の代表的な遺跡であり、縄文時代には含まれません。
問4	答え 2 縄文時代中期に作られた土偶であり、当時の人々の信仰や祈りの対象であった。	「縄文の女神」は、山形県の西ノ前遺跡から出土した縄文時代を代表する土偶です。土偶は縄文時代特有の遺物であり、その造形からは当時の人々の高い技術力や、精神世界を知ることができます。弥生時代に広まった青銅器や、古墳時代の埴輪とは、製作された時代も文化的な背景も明確に区別されます。
問5	答え 2 竪穴住居などを拠点とし、一定の場所に定住して暮らすようになった。	縄文時代には、竪穴住居をつくり一定の場所に定住する生活へと変化しました。移動しながらの生活では持ち運びが困難な土器や土偶の利用、長年のゴミ捨て場である貝塚の形成は、この定住生活と深く結びついています。
問6	答え 2 自然の恵みに感謝し、食べ物の豊かさや安産などを祈るために作られた	縄文時代は、狩りや漁、採集による生活であり、自然の状況に食料確保が左右されました。そのため、土偶などの遺物は、子孫繁栄や獲物の増加、病気の回復といった切実な願いを込めた呪術的な道具として用いられたと考えられています。
問7	答え 2 大型掘立柱建物跡や多数の竪穴住居が見つかり、長期間にわたる大規模な定住生活が行われていた。	三内丸山遺跡は、縄文時代の人々が長期間にわたって安定した定住生活を営んでいたことを証明した遺跡である。稲作や環濠集落、金属器の使用は弥生時代の特徴であり、吉野ヶ里遺跡などに代表される。また、大型動物を追う移動生活は旧石器時代の特徴であるため、縄文時代の定住生活という特徴を正確に捉える必要がある。
問8	答え 3 土偶	縄文時代の人々は、自然界のあらゆるものに靈魂が宿ると考えるアニミズムを信じていました。この時代に作られた土製の人形は、多くの場合、乳房や腹部が強調された女性の姿をしており、新しい生命の誕生や自然の再生、そして食物の豊作を願う呪術的な道具として使われたと考えられています。古墳時代に作られ、古墳の周囲に並べられた埴輪とは、時代も目的も異なる点に注意が必要です。
問9	答え 1 安産や豊作を祈るまじない、あるいは病気の治癒を願う儀式的道具として用いられた。	土偶は、縄文時代の人々が自然界の精霊や生命力を崇める中で生まれた道具です。女性を模した形が多いことから、安産や豊作といった「産み出す力」への願いが込められていたと考えられており、祭祀や呪術（まじない）の道具として用いられました。他の選択肢にある「有力者の墓（古墳）の周囲に並べる」ものは古墳時代の埴輪を指します。
問10	答え 2 土偶は、豊かな収穫や安産などのまじないのために縄文時代に作られたが、埴輪は古墳の主の供養や魔除けとして古墳時代に作られた。	土偶と埴輪はどちらも人型の土製品ですが、時代と役割が大きく異なります。土偶は縄文時代の狩猟・採集社会において、生命の誕生や自然の恵みを祈る宗教的な道具として機能しました。一方、埴輪は古墳時代に現れ、王や有力者の墓である古墳を飾り、その聖域を守る役割や、葬送の儀礼のために立て並べられました。
問11	答え 4 表面に縄の模様がついた厚手の土器を用いて煮炊きを行い、地面を掘り下げて床を作った住居に住んでいた	この時期の日本は縄文時代にあたります。人々は縄文土器を使って、植物の採取や狩猟で得た食料を煮炊きして食べるようになりました。また、地面を掘り下げて柱を立て、屋根を葺いた「竪穴住居」を作ることで、定住的な生活が営まれていました。他の選択肢は、弥生時代、古墳時代、旧石器時代の特徴です。
問12	答え 2 狩猟・採集による食料確保に加え、土器で煮炊きを行うことで食べられるものが増え、竪穴住居での定住が進んだ	縄文時代には、土器を使って食物を加熱調理（煮炊き）する技術が普及しました。これにより、以前は消化できなかったデンプン質の木の実なども食用にできるようになり、食生活が安定しました。その結果、人々は一箇所に留まって生活するようになり、竪穴住居による集落が形成されました。稲作や高床倉庫、金属器の使用は、その後の弥生時代の特徴です。
問13	答え 4 土偶 ― 豊かな収穫や安産を祈るため	縄文時代には、女性の姿を象った土偶が数多く作られました。これらは、自然の恵みによる豊かな収穫や、新しい命の誕生（安産）を願う呪術的な道具として使われたと考えられています。選択肢にある埴輪は古墳時代、銅鐸は主に弥生時代に関連する遺物であり、時代や目的が異なります。